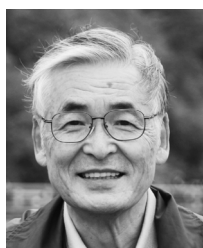


「橋の設計家」～「橋の景観設計家」そして「橋の写真家」



(株)景観技術センター 代表取締役社長
(公社)土木学会フェロー

平 野 暉 雄

1964年立命館大学土木工学科入学，土木構造物で一番「美しさ」を追求できるのは「橋」ではないかと思い，オリエンタルコンサルタント大阪に入社して，上司から「何をやりたいか」を聞かれ，迷うことなく「橋の設計」を選択しました。入社早々「毛倫橋」（3径間連続部分合成桁・橋脚・橋台の設計）を任せられ，一年程掛けて「手計算」で設計を行いました。役所へ途中設計書を持って行くと，明日杭を打つが間違いないかと言われ「ハイ」と言ったが気になり再度チェックし，翌日会社帰りに現場へ行くと工事が始まっていて責任感の重さを感じました。現在でもこの形式の橋では日本一の長大橋です。藤田まこと作詞・作曲「十三の夜」の歌詞に「もすりん橋」が出てきます（写真—1）。



写真—1 毛倫橋設計

ちょうど電子計算機の黎明期で設計のコンピュータ化に伴い開発室が東京に設けられ転

勤，今までにない土木の開発に四苦八苦して色々なソフトを開発しましたが，橋の設計にあまり携われず，10年近くお世話になりましたが，自分のやりたい事と違ったため退職致しました。

橋が好きで，コンピュータが好きで，写真が好きで，絵が好きな私にとっては「もってこい」の仕事と思い34歳（1977年）の時，視覚化表示の「景観技術センター」を興しました。

当時土木では「景観」と名の付く会社名・部，学校（研究室）はほとんどなく，友人からも「誰が景観なんかで役所が仕事を出すのか」と言われましたが，3年間辛坊すれば開花する，と言う夢を持って始めました。

電子計算機に図化機を使って完成予想図（中心投影図）を描くCG（フォトモンタージュ）を開発し，営業から業務打合せ，橋の計画予定地の現場撮影そして線画作成までを行い，色について当初は画廊のオーナーに写実的な絵を描ける画家を紹介して貰い外注し，また写実的な絵を描ける人を社員に採用致しました。

1979年，設計会社から大鳴門橋の景観検討業務が入り，大鳴門橋がどの様に見えるか，四国側，淡路島側，大型カメラで揺れる船上からも暗幕を被って撮影を行い，その内5カ所程からフォトモンタージュを作成致しました。

審美委員会が設けられ，橋の色検討に日本塗料工業会の色見本帳よりA4サイズの色板10枚程を作成し，四国側鳴門お茶園からの見え方で6色ほどフォトモンタージュを作成致しました，最終的には少し明るいグレー色（N7.5）で決まりました（写真—2～4）。

その後，瀬戸大橋，明石海峡大橋，来島海峡大橋等々，複数の設計会社より本州四国連絡橋の景観検討資料100枚以上作成致しました。

設計会社，メーカー，ゼネコン，役所から景観検討業務をいただき，景観検討業務で47都道府県ほとんど行きました。景観検討



写真—2 大鳴門橋工事中 1980 年撮影



写真—3 大鳴門橋フォトモニター ジュ 1980 年作成



写真—4 大鳴門橋 2013 年撮影

資料複製 3,000 枚程を保管しています。

景観検討業務で各県へ行き、橋の計画予定地の写真撮影を行いました。そのついでに、その県の歴史文化のある橋の写真撮影も行いました。同じ撮るならフォトジェニックを心掛け、写真コンクールに応募して 10 数回受賞、1994 年大阪府厚生年金基金 10 周年記念写真コンクール「晩秋の渡月橋」で 10 周年記念賞（全日本写真連盟・朝日新聞社後援）（写真—5）、同じ年に鋼橋技術研究会創立 10 周年記念写真コンクールで最優秀賞を受賞致しました（写真—6）。

1995 年阪神・淡路大震災直後、阪神高速道路武庫川～月見山の高架橋橋脚約 1,000 基 8,000 枚程撮り、感謝状を頂く。

キヤノンフォトギャラリー所長に個展を薦められ、個展に応募して作品として認められ 1999 年キヤノンフォトギャラリー東京銀座、大阪梅田にて「心なごむ日本の橋」で個展を開催、以後、2003 年、2007 年、2011 年、富士フイルムフォトサロン東京、大阪等にて個展をそれぞれ「橋」をテーマで開催致しました。

それに伴い拙著写真集「日本の名景 橋」（光村推古書院）、「橋を見に行こう」、「石橋伝えたい日本の橋」（いずれも自由国民社）、

「橋を楽しむ（歴史で辿る日本の橋・中国古代橋梁・韓国伝統橋）」（日本写真企画）上梓し、20,000 冊以上売れました。

情報誌・新聞（文芸春秋、朝日新聞、日本経済新聞、聖教新聞、しんぶん赤旗日曜版、地方新聞等）に「橋のある風景写真等」で 200 回以上掲載、NHK、フジテレビ、テレビ東京に「橋」をテーマに 5 回出演致しました。

2000 年（55 歳）頃から「橋の景観設計家」から「橋の写真家」の方が主体になりました。

20 代の時、上司から「10 代は勉学、20 代はアイデア、30 代は実務、40 代は経営的に、50 代は多角的に、60 代からは今までのやってきた事を纏める」と言われ、何となくその様な人生を味わって来ました。

65 歳の時パソコン教室に通ってホームページを開設致しました。

69 歳の時、立命館大学元総長大南正瑛先生とお会いした時、絵がお好きなのを知っていたので、何時から絵を始められたかお聞きすると、総長を辞めた 70 歳からとの事でした。

私も 70 歳から下手ですが好きな橋の絵を描き始めました。現在 74 歳、絵も楽しんでいます。

ホームページ「伝えたい日本の橋」に橋の写真約 20 万枚の内 2,000 枚、橋のある風景画 60 枚等掲載致しています。

是非ご高覧下さい。



写真—5 京都渡月橋



写真—6 東京八幡橋